



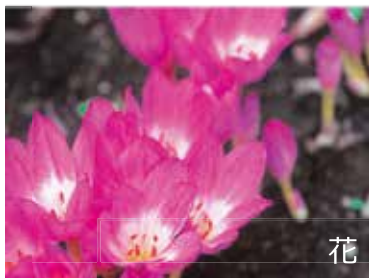
食 ギョウジャニンニク

低地の林内、山地の日当たりのよい傾斜地に生える。
 強烈なニンニク臭があり、茎は赤紫色を帯びる。
 葉はイヌサフラン（毒）やスズラン（毒）に似ている。
 近年、庭に植えたギョウジャニンニクと間違えてイヌサフ
 ランを誤食した事例が毎年のように発生している。



イヌサフラン(毒)と
 ギョウジャニンニク(食)の混栽

イヌサフランをはじめ、観
 賞用植物には有害なもの
 もあるため、札を立てて種
 類を表示し、区分けして栽
 培しましょう！



毒

イヌサフラン

野山では見られないが、コルチカムという名で園芸用に球根が販売されている。

光沢のある長い葉は夏には枯れ、秋にクロッカスに似た薄紫の花が咲く。

有毒部位：全草

有毒成分：コルヒチン

中毒症状：おう吐、腹痛、下痢、けいれん、呼吸のみだれ。死亡することもある。

※札幌市内では、平成25年に中毒事例が、平成27年に死亡事例及び令和6年に誤食を疑う死亡事例がある。道内では令和2年から6年までの期間に6件の食中毒事例(推定含む)があり、うち2件で計3名の死亡者が発生している。

葉をギョウジャニンニクと間違うか、球根をニンニクやタマネギ等と誤認して食べる場合が多い。